

~One for all, All for one~



2020~2021

いなほ

毎例会発行

第45巻

第1号

通巻1,042号

TOKYO WASEDA LIONS CLUB CLUB-REPORT

発行／東京早稲田ライオンズクラブ 東京都世田谷区砧5丁目19番5号

会長／L八木橋 重仁

幹事／L矢口 実

会計／L河口 良伍

L吉澤 隆志・追悼号



昭和9(1934)年11月10日生～令和元(2019)年11月23日没(享年85才)

クラブ在籍：昭和47(1972)年6月9日～令和元(2019)年11月23日(47年6ヶ月15日)

ひ と こ と

会 長 L八木橋 重仁

ライオンズクラブに入会したのは、10年前……そう、東日本大震災の年。
そして、会長に任命いただいた年は、COVID-19。
私の節目には、災難がつきまとうのか？10年後には、また何か起こるのか？
今は、一日も早くCOVID-19の感染拡大がおさまり、平和な日々が戻ることを祈るばかりです。
皆さまも、くれぐれもご自愛ください。

例会報告

8月第二例会

【いなほ例会】

8月26日締切

◇出席報告		◇病 欠	L須藤
在籍者数	24名		
出席者数	11名	◇欠 席	L柏俣、L川上
海 外	0名		L清水、L下山
病 欠	1名		
マークアップ済	0名		
特例会員	5名		
終身会員	2名		
家族会員	1名	◇ドネーション	¥ 0.-
欠席者数	4名	ファイブ	¥ 0.-
出席率(8/31現在)	83%	ドリンク・コーナー売上	¥ 0.-
ビジター	0名	あゆみBOX	¥ 0.-

***** いなほ例会特集 ① *****

「いなほ」例会特集①

昨年11月23日に亡くなられたチャーターメンバーのL吉澤隆志への追悼の文章を、縁のあるメンバーからお寄せ頂きました(名簿-ABC順)。

L吉澤こそ最高のライオン

L油田 寛昭

私は1985年3月に東京早稲田ライオンズクラブに入会しましたが、その当時、新入会員は必ずPR・情報委員会に所属させられ、「いなほ」の編集会議に出席することが義務付けられていました。その理由は、ライオンズクラブの情報はすべてこの委員会に集まるので、新人がライオンズクラブの何

たるかを知るのに最も相応しいとの判断からです。このような考え方をしていたのがL吉澤で、「いなほ」編集の絶対的な存在でした。当時、L吉澤のご自宅が早稲田にあり、そのご自宅には編集会議にうってつけの小さな離れがあり、ここで例会のない第2・第4水曜日に開かれていました。L吉澤のご指導のもとライオンズクラブに関するあらゆる情報を整理し、内容をチェックし、原稿にまとめ「いなほ」へ掲載していました。当時のPR・情報委員会は最もハードな委員会だったと思います。例会以外の毎週水曜日に開かれる委員会だったからです。これもL吉澤のライオンズクラブへの熱き思いがあったからこそであり、「いなほ」編集以外にもとにかくライオンズクラブ中心に生活していると言っても過言でないような人でした。私も長きにわたり他のライオンズクラブのメンバーも大勢見て参りましたが、L吉澤ほど純粋な意味でライオンズクラブを大切にされた方はいません。間違いなくL吉澤こそ「ライオン」と呼ばれるに最もふさわしい人だと言えます。

心よりL吉澤のご冥福をお祈り申し上げます。

L吉澤を偲んで

L鎌田 貴好

L吉澤との最初の出会いは、私が東京早稲田ライオンズクラブに入会した時に、直ぐに声をかけていただいたと覚えております。入った当初は何もわからず、仕事の関係上中々出席できず申し訳なさそうな顔をしていた私に「ライオンズクラブは本業を優先して、参加出来る時に参加すればいいんですよ。」と、優しく声をかけていただいたのを覚えております。そして、その言葉に甘え現在に至っています。

あるとき、L吉澤から「ドネーション先に戸塚交通少年団があり、今までは東京早稲田ライオンズクラブから自分がでていたが、今は仕事場が変わってしまったので、L鎌田は家も近く日曜に参加できるので、私の代わりにどうですか？」とお誘いを頂きました。もちろん私は快諾致しました。戸塚交通少年団の行事は日曜日が多いので、こんな私でも何とか勤まっています。クラブにわずかでも貢献出来るきっかけを与えていただいた事をととても感謝しております。

入会当時は新入会員に対してのセミナーが(講師)L吉澤の元で何回かありお世話になりました。L(ライオン)をつける理由、ライオンズ・テーマ、テールツイスターの用語の意味等色々教えていただきました。ライオンズクラブの事はもとよりその他の事でも博識があり、例会で何か尋ねると親身に教えていただきました。ライオンズクラブにおいては、生き字引のような方、Mr.ライオンズと言えるとと思います。そして、私にとっては、良き大先輩、優しい教師のような方でした。

安らかに眠りください。

故・L吉澤の思い出

L笠原 恒幸

L吉澤には、入会当初からライオンズクラブのルールを色々教えていただきました。理事会の進め方、承認事項はしっかりと確認すること等々、ライオンズクラブに限らず他の組織においても学んだことを生かす場面が多くありました。また、L吉澤が中心に継続してきた、「いなほ」の会長ひとことも、月に2回の投稿を継続して1年間続けることが大変良い勉強になりました。

「千の風になって～♪♪♪……」、またお聞きしたいものです。

L吉澤、ありがとうございました。

L吉澤との思い出

L河川 良伍

東京早稲田ライオンズクラブに入会した当時、右も左も分からない私に、L吉澤がライオンズクラブの仕組みなど様々なことを優しくお教えてくださいました。また、同じ出身大学の大先輩であるというご縁もあり、かつての大学の話や、お持ちであった船の話や、お気に入りの台湾訪問の話など、とても楽しくお話しさせていただいたことを覚えております。私が会長を拝命した年度のチャーターナイト45周年記念例会がL吉澤にお会いした最後の例会でしたが、東京早稲田ライオンズクラブ創立以来その時まで欠席することなくすべての例会にご出席されたというのは、偉大な実績であり、またそれだけ社会貢献された証でもあり、尊敬の念に堪えません。「ライオンズクラブのみんな台湾に行こうよ」とお誘いいただき、そのような機会があればとずっと願っておりましたものの、それが叶わなかったことは心残りですが、もし訪台の機会がございましたら、L吉澤の思いと共にと思っております。

L吉澤、どうか安らかにお休みください。また、ライオンズクラブをどうか温かくお見守りください。

なが〜いライオンズクラブとL吉澤

L河手 啓一

私もライオンズクラブ歴は長いですね。33歳の時に東京新宿西ライオンズクラブに入会して、今年82歳ですものね。その後東京早稲田ライオンズクラブが出来て、当時はメンバーが50人ぐらいいましたね。なんとってクリスマス家族例会になんと100人ぐらい集まるから、クリスマスプレゼントをトラックで買いに行った事をおぼえてますね。むかしは東中野の日本閣(※注1)でやってまして、後の横綱・若乃花関(現・花田虎上氏)、貴乃花関(現・花田光司氏)が小学4・5年の頃に親と一緒にクリスマス例会に来て、元気にとび回ってるのを覚えていますね。なんと云っても40年位前ですものね。

L吉澤とも長いお付き合いですね。立派な方ですからライオンズクラブに入ってからすぐに会長をやると思いきや、かなり長い時間たってから会長職につきましたね(※注2)。それから彼はすごいライオンズ・マンですね。入会当時はわりとおとなしい人でしたね。字を書いたり印刷関係はプロですし、むかしは事務所が早稲田大学の近くにありましたから、よくL吉澤の会社で色々打合せしていましたね。ライオンズクラブがすべての人でしたから、もっともっと活躍してほしいですね。

※編集部注1：東中野・west53rd日本閣は2020年5月31日に閉館。

注2：L吉澤は1991-1992年に第20代会長に就任。

L吉澤隆志を偲んで

L前川 晶

コブクロの歌にあるように、いつかこんな日が来ることは分かっていたはずですが、やはり寂しいですね。

私が東京早稲田ライオンズクラブに入会した際、スポンサーのL坂本以外で最も話しかけてくださったのはL吉澤でした。チャーターメンバーであり、ライオンズクラブでも数々の要職を務め上げてこられたのに全く偉ぶることもなく、いつもにこやかに声をかけてくださいました。私も自分の入会

式に遅刻したり、完全にカジュアルな服装で参加したり、数々のマナー違反をしておりましたので、「ライオンの中のライオン」であるL吉澤からすれば注意したくなることも多々あったと思いますが、それでもお叱りを受けたことは一度もありません。いつも「楽しめばいいんだよ」と優しくおっしゃっていました。そのようなL吉澤の姿勢が、現在の東京早稲田ライオンズクラブの雰囲気(おおらかで楽しく「奉仕」には真剣)を醸成したものと思います。

最近仕事や私生活の関係でなかなか例会に出席できない状況であり、さらに精神的支柱であるL吉澤が逝去されてしまったことから、ライオンズクラブにおける身の振り方を考えないこともありません。ただ、何に所属するかと「奉仕」は全く別のことですので、高田馬場の街角にすくと立つL吉澤の背中を思い出しながら、これからも社会奉仕に努めてまいりたいと思います。

L吉澤、ご指導ありがとうございました。本当にお疲れ様でした。ゆっくりとお休みください。

故、L吉澤隆志を偲ぶ

L 齋田 孝

L吉澤の事を考えると、何よりもまず「台湾」というイメージが湧く。東京早稲田ライオンズクラブの古くからのメンバーは、台北市永楽ライオンズクラブとの姉妹提携関係もあって、概して皆台湾通であり、台湾びいきではあるが、L吉澤のそれは一際はっきりしていたと思う。台湾の事となると、自分の故郷を語る様な顔付きになって、「台北のあの店は安くて、美味しいんだ。」だの「永楽のL〇〇は親切だけど、一寸うるさい時もある。」等ととてもうれしそうに話してくれたものである。「今度、奥さんも連れて、ぜひ、一緒に行きましょう。」と誘ってくれていたのだが、残念ながら叶わぬ事になってしまった。

一昨年の夏、L吉澤を筆頭にクラブの有志が蓼科の山荘に来てくれた事があった。一行が別荘に到着した時に、何を思ったか、L吉澤が、「今夜はここに泊まるの？」と何回も繰り返し質問していた様子が、とても印象に残っている。その翌日は天候に恵まれ、メンバー一行は近くのゴルフ場でプレイをしたのだが、ゴルフをしないL吉澤と私達夫婦、そして事務局の武山さんとで高原の夏をゆっくりと楽しんだ。

まず、30分程ドライブをして八島湿原に到着、素晴らしい青空の下、爽やかな高原の風に吹かれながら木道を散策、ヒュッテで昼食を摂って、再び木道を辿ってから帰路についた。

私にとっては、L吉澤は入会した時から雲の上のチャーターメンバーであり、ライオニズムを体現し続け、模範となってくれた大先輩ライオンであった。L吉澤とゆっくりと過ごした夏の一日が一生の思い出をなっている。

謹んでご冥福をお祈り致します。

L吉澤を悼む

L 坂本 道昭

チャーターメンバーのL吉澤がお亡くなりになって暫く経ってしまいましたが、本当に懐かしく、今日も目の前に飄々と現れる錯覚に陥ります。L吉澤のライオンズクラブにかける情熱は、私共後輩のライオンズメンバーにとっては、一言で言えば「すごいなあ！」に尽きます。

特に私が覚えているのは、ご自身が癌を患い入院しているときに、入院先の病院から病をおしてホ

ーム例会に出席なさったことです。とにかくホーム例会は、多分45年前後一回も欠席されたことがないと記憶しております。

そして東京早稲田ライオンズクラブが現在も発行している月2回の機関誌「いなほ」をL吉澤が中心となって、これも多分40年前後継続発行されたことです。また、ライオンズクラブの規約に詳しく、まさにライオンズクラブの生き字引的存在でした。ある時までは、東京早稲田ライオンズクラブ独自の新入会員の教育セミナーの先生役として、後身の指導に当たられていたと思います。

私は、東京早稲田ライオンズクラブは数有るライオンズクラブの中でも、原理原則を比較的大事にしているクラブではないかと自負しております。このようなクラブ運営を永年にわたって継続して、現在当クラブがあるのはL吉澤の功績大だと思えます。

また、東京早稲田ライオンズクラブは台湾の台北市永楽ライオンズクラブと永年姉妹提携していますが、この関係が現在まで続いているのは、我々東京早稲田ライオンズクラブ側の顔として何十回にわたって台湾に出向き、友好関係の要として活躍されたL吉澤の役割は大きいものと思えます。

本当にL吉澤のいない東京早稲田ライオンズクラブはクラブの核を失いましたが、これからL吉澤の東京早稲田ライオンズクラブに対する念望意思を受け進んでいくことで応えていきたいと思えます。

***** いなほ例会特集 ① *****

NEWS TOPICS

330-A地区・第66回年次大会ガバナーズ・アワード受賞報告

編集部

新型コロナウイルスの影響により330-A地区の年次大会が中止となりましたが、先日キャビネットよりガバナーズ・アワードの記念品が贈られてきました。

今回受賞されたメンバーは下記の通りです。

- ・ L河手 啓一(敬寿賞・傘寿)
- ・ L吉澤 隆志(在籍メンバー賞・45年)
- ・ L矢口 実(ガバナー特別賞)

【あなたはどう思いますか】

推定無罪

L矢口 実

「何人も有罪と宣告されるまでは無罪と推定される。」……推定無罪とは、日本に限らず、およそ全世界の刑事裁判に於ける基本原則である。しかし最近世間を見回すと、どうやらこの基本原則から大幅に外れているように感じる人が多い。例えば最近、男性タレントが未成年の女子高生と酒を飲んだ挙げ句、ホテルにまで連れて行ったのではないかと……との記事が週刊文春に掲載された(いわゆる「文春砲」)が、所詮は週刊誌ネタであって確たる証拠もなければ、当人たちが認めているわけ

でもない。にも拘わらずネットやSNS上などでは、やれ「東京都青少年健全育成条例違反じゃないか？」とか、やれ「児童売春防止法違反で即刻逮捕しろ！」などと、まるで現場に居合わせて見ているが如くボコボコに叩いている。

まあこの件に関しては、所詮は無責任なネット民が騒いでいるだけなので大して驚くこともないが、報道に対して責任のあるマスコミの言動となると、これは大分意味合いが違って来る。以下はIR汚職疑惑で逮捕された衆議院議員の秋元司容疑者が、証人買収の疑いで再逮捕された時の日テレNEWS 24(8月20日)の冒頭部分である。～「衆議院議員の秋元司容疑者が証人買収の疑いで再逮捕されたことを受けて、立憲民主党の安住国対委員長は、即刻、議員辞職すべきだと厳しく批判しました。」～これだけを見る(聞く)と、安住氏は「逮捕 = 即刻辞任」と言っているように聞こえるが、実際の安住氏の発言は「司法手続きをゆがめるような行為をやったとなると～この容疑が事実だとすれば、即刻議員辞職に値すると思っております。」と、事実の確認が取れたら……と念を押しているにも拘わらず、まるで「逮捕された = この容疑は事実だ = 即刻辞任しろ！」と言ったような、誤った印象を与える可能性が極めて高い(情報操作?)。

更に極めつけは、日本から逃亡してレバノンで記者会見を開いたルノー・日産・三菱アライアンス元CEOのカルロス・ゴーン被告に対して、現職の法務大臣であり弁護士資格を持つ森雅子参議院議員が行った記者会見(1月9日)での「ゴーン被告は～司法の場で正々堂々と無罪を証明すべきだが、～」という発言である。これに対しゴーン被告の代理人は「有罪を証明するのは検察であり、無罪を証明するのは被告ではない。ただ、あなたの国の司法制度はこうした原則を無視しているのだから、あなたが間違えたのは理解できる。」というイヤミにも聞こえるようなコメントを出したそうだ。後日、森法務大臣はこの発言を言い間違えだと訂正をしたそうだが、ネット民がネット上でガシャガシャ言っているのは訳が違い、この言い間違え(実は「本音」?)は全世界に対して「やっぱり日本の刑事裁判の原則は『推定有罪』なんだ」と、以前にも増して強く印象付けることになったと聞く。因みに秋元被告も、ゴーン被告も、各々の容疑を全面的に否認している。

この法務大臣に関しては「失言の美魔女」なる、あまりありがたくない称号まで頂いてるやに聞かすが、いずれにせよコロナ禍での自粛疲れなども手伝って、他人をむやみに攻撃する傾向が強くなった昨今、改めて「推定無罪」の原則に立ち返るべきでは?と感じたのだが、あなたはどう思いますか。

***** いなほ例会特集 ② *****

「いなほ」例会特集②

L吉澤と接点の無い若いメンバーを中心に、例年通り①私の夏休み、②アクティビティについて、③自由題、の中から好きな題を選び、20字以上で文章を書いて頂きました。以下はその出席報告です(名簿-ABC順)。

温泉旅館

L 齋田 孝

小田急線の地下化(連結立体交差事業)に伴い、我家の近辺でも線路は地下に移り、地上の跡地には様々な施設が出来ている。ユニークな教育で知られる高名な保育園、子育て世代をターゲットにした、

オシャレなショッピングゾーン等だが、中でもびっくりしたのは、この土地に温泉旅館が出来るという話である。

世田谷の閑静な住宅街であったところに、突如、様々な施設が出来るというだけでも隔世の感があると思うのだが、よりによって、「温泉旅館」が出来るというのである。

今、目の前では、オシャレな「和」の建物が姿を現しつつある。お湯は箱根湯本から持ってくるそうである。

この秋にはオープンするという事であるが、どんな客が誰と来るのだろうか。

私の夏休み

Ｌ平子 剣士

今年の夏休みは新型コロナウイルスの影響で、帰省はせず、都内で過ごしました。都内の暑さも尋常でなく、ほとんど家で過ごすという強制的な「STAY HOME」でした。

来年はコロナが落ち着いて楽しい夏休みを過ごしたいです！

私の夏休み

Ｌ八木橋重仁

私は、8月8日で、50歳になりました。半世紀！

闘争本能むき出しに、私の道を進むのみ！なんて半生だったような。。そしてそれに終止符を打ち、人生の折り返しと、新たな挑戦とっておりましたが、2020年2月から発生した“新型コロナウイルス感染症(COVID-19)”の影響で、バケーションにはならず、ただひたすら、酷暑の毎日を野天のゴルフ練習場に行くか、自宅でぼーっとする他ありませんでした。全く、新たな挑戦！どころではありませんでした。

私は、自宅にすることが苦手で、屋内での趣味はなく、朝から酒に溺れる毎日でした。ただ、一つ覚えたのは、朝から酒を飲みながら夕食の下準備をすることくらいか。。おかげで、料理も少しできるようになりました。

私の50歳の夏！それは、食事の準備ができるようになったこと！家内の仕事軽減！ができるようになったこと！

***** いなほ例会特集 ② *****

編集後記 ～「いなほ」最終号に寄せて～ 超長文(汗)

★ 昭和51(1976)年7月の第1号以来、45年間にわたり発行してきました我が東京早稲田ライオンズクラブの機関誌「いなほ」ですが、通巻1,042号の本号をもって最終とさせていただきます。終了の理由は編集長の死去によるものです。最近私のことを「いなほ」の編集長と呼ばれる方がいらっしゃいますが、私はあくまでも「いなほ」の副編集長で、編集長はL吉澤であります。確かに近年、L吉澤編集長が体調を崩されたりで例会からも遠ざかり、数年前から「いなほ」の編集に関しても、そのほとんどを私が1人で行って来ました。メンバーからも「矢口さん、そんなに1人で無理してまで『いなほ』を出さなくてもいいんじゃない？」とのお言葉も頂いてはいました。しかし自分の中では、

恐らく生涯ライオンであり続けるであろう(そして実際にそれを貫かれた) L 吉澤編集長がご存命である限りは続けていこうと決めておりました。そして残念ながら昨年の L 吉澤編集長のご逝去を受け、今日のこの日を迎えるに至った次第です。

改めて「いなほ」の歴史を振り返りたいと思います。我がクラブは昭和 47 (1972) 年 6 月 9 日に東京新宿西ライオンズクラブ(現在は解散)をスポンサーとして結成され、同年 10 月 10 日にチャーターナイトを開催しております。そして「いなほ」はクラブ結成から遅れること 4 年、昭和 51 (1976) 年 7 月の新しい期のスタートに合わせて発行されました。当時は今のように携帯電話や電子メールは言うに及ばず、ファックスでさえそれ程普及していなかった時代で、「いなほ」はまさに月 2 回開催される例会の開催通知として発行され、それぞれのメンバーに郵送されていました。

最初の頃こそクラブメンバーも多く在籍し、それ程の問題も無かったのですが、メンバーが減少し始めると発行単価が高くなり、一部のメンバーから厳しい批判を受けたこともあったそうです。そんな状況下で私が我がクラブに入会(平成 22 [2010] 年)したに頃は、メンバーの激減による財政的な問題から、例会費の削減などと並んで、「いなほ」の合理化が急務となりました。そこで「いなほ」の電子化を進めるべく当時の L 笠原前会長、L 眞淵会長などといろいろ協議を重ねていたのですが、「電子版いなほ」を試作しようといった矢先に、あるメンバー(故人)から「読みづらくなるから……」といったクレームが入り、結局電子化にこぎ着けたのは 1 年後の L 下山会長期からでした。因みにその時にクレームを付けたメンバーが、実は以前『いなほ』の単価が高すぎる! とクレームを付けたメンバー連中のうちの 1 人(クレーマー?)だったと後に聞かされたときには、さすがにのけ反りしましたが(苦笑)。

その後 2013~2014 の私の会長期には、330-A 地区・第 60 回記念年次大会(鈴木定光ガバナー)に於いて、永年にわたる「いなほ」発行の功績が認められ、ガバナーズ・アワード(広報優秀賞)を受賞しました。授賞式では、L 吉澤編集長が鈴木ガバナーから記念品を授与されています。そして 2018~2019 の私の 2 回目の会長期に発行された第 43 巻第 5 号で、遂に通巻 1,000 号を達成しました。

さてここからは L 吉澤との思い出を書いていきたいと思います。私は平成 22 (2010) 年 2 月に、もう 1 人のチャーターメンバーである L 河手啓一にスポンサーになって頂き入会しました。同じ時期に私以外に 4 名が同時に入会したのですが、残念ながら現在もクラブに残っているのは私 1 人だけです。入会してすぐに西新宿にある「角筈地域センター」でクラブの新入会員セミナーが開催され、その際の講師が L 吉澤でした。私の記憶が正しければ、その後クラブでの新入会員セミナーは開催されておらず、私たちが最後の受講者になってしまいました。期が変わり、私は IT・PR・情報委員会に入り、「いなほ」の編集後記を書くよう指示を受けたのが、私と「いなほ」の最初の関わりであり、また、この「いなほ」を通して L 吉澤との密な交流が始まりました。他の方に聞くと、L 吉澤も若い頃はかなり厳格なところがあるライオンだったと聞いていますが、私が入会した頃はそれ程



鈴木ガバナーから記念品を受け取る L 吉澤

厳しい指導を受けたということはありません。しかし、ライオンズクラブの原理原則については、かなり詳しく教えて頂きました。例えばよく勘違いをしている例として、「ライオンズクラブで議論をしてはいけないことは、『政治』と『宗教』じゃなくて、『政党』と『宗派』なんだよ。」と教わりましたが、これは国際会則第2条「目的」の(g)にもはっきりと謳われております。で、この話には少々思い出がありまして、私が会長を務めた最初の期(2013~2014)のクラブ会長会で、某クラブの会長が鈴木定光ガバナーに対して、その期にガバナーが作成したバッジが「法輪(dharma-cakra)」をモチーフにしていることに嘸み付き、「ライオンズクラブでは『政治』と『宗教』はご法度なのに、このようなデザインはけしからん！」的なことを言われました。それを聞いた時に「ああ、やはり物事はきちんと理解していないと駄目だな。」と感じたことを今でも覚えております(法輪は「宗教」には関係があるが、「宗派」とは関係が無い)。

L吉澤が何故それ程までにライオンズクラブの原理原則に詳しく、またそれを重んじるようになったのかを聞いたことがあります。昔のライオンズクラブは今と違って、「社会奉仕」が主目的ではなく、「ステータス」を求めて集まってきた「小金を持った親方衆の社交場」的な場所だったそうです。あるとき会長経験者が若きL吉澤に対し、「おい、クラブ内に『元会長会』を作ってくれ。」と言い出したそうです。クラブ会長は1年で交代するので、その後もずっと威張っていたい……という思いでもあったのでしょうか？ですがL吉澤はライオンズ必携を取り出し、『元会長会』なんて、必携の何処にも書いてありませんが……。」と、その元会長の要求を突っぱねたそうです。そのように周りからの無理難題に対して正面から対抗出来るように、ライオンズ必携を隅から隅まで読んでライオンズを身に付けたそうです。そんなL吉澤ですが、米国ニューオリンズでの国際大会にクラブメンバー数名と参加した際、夜中に重鎮のメンバーから「おいL吉澤、日本食が食いたくなったので、何処かで探してこい！」と言われたときには、さすがに参ったそうです。「社会的地位や年齢に違いがあっても、ライオンズクラブにおいては皆平等である……」という原理原則がありながら、若い頃には大分理不尽な目に遭ってきたこともあってなのでしょう。私を含め若いライオンに対して、あれだけの経験と知識がありながらも決して偉ぶることなく、本当に気さくに付き合ってくださいました。

L吉澤を語る上で忘れてはならないのが「台湾」でしょう。L坂本は原稿の中で訪台回数を「何十回」と書かれていましたが、私が本人から聞いたところでは、どうやら「3桁」に達していたようです。私も台北市永楽ライオンズクラブの例会へは何度か参加しましたが、東日本大震災への義援金に対するお礼と、チャーターナイト(台湾では「授證」と書くそうです)40周年の時にはL吉澤を含め何人かのメンバーと一緒に、また、平成24(2012)年9月と、平成25(2013)年3月にはL吉澤と2人で台湾に行きました。特に2人で行ったときは、今更台北観光でもないだろう……てなもんで、ちょっと足を伸ばして「九份」まで行ったり、あまり日本人観光客は行かないであろう「迪化街」や「永楽市場」なんかを散策したりと、結構楽しく旅を楽しむことが出来ました。また、2人とも中華料理大好きなので、三食とも中華を食べていましたね。L吉澤はビールを飲まないのです。昼間っから紹興酒をあおっていました(苦笑)。



L吉澤と2人で例会訪問をした際の写真

さて皆さんにとって、L吉澤と言えばライオンズ……といった固定観念があるかも知れません。以前「L吉澤は、職業欄にいつも『ライオンズクラブ』って書くらしいよ。」なんてジョークを飛ばしている方もいましたが、実は結構意外な面もお持ちでした。大学時代は、あのオペラ歌手の岡村喬生氏やボニージャックスを輩出した「早稲田大学グリークラブ」に所属して合唱をやっていたそうですし、船舶免許をお持ちで一時期は友人と共同で船(ヨット?ボート?)も所有していたとか。また、流派は存じ上げませんが、茶道も師範か何かをお持ちだったと聞きました。また、スポーツも山登りやテニスなど、結構ハードなものを晩年足腰が弱るまで続けていたと聞いております。そんなL吉澤ですが、「ゴルフ」は生涯やらなかったようです。これも以前に理由を聞いたことがあります、「ベテランのクラブメンバーから、『おいL吉澤、ゴルフぐらいは我々年寄りの為に残しておいてくれよ!』と言われたので、やらなかったんだ。」そうです。ここもまた、「ゴルフ以外は何でもやる」私と馬が合った一因かも知れません(笑)。いずれにせよ、これだけ多趣味な中であれだけライオンズ活動をこなされていたのですから、大したものだと思います。



高田馬場駅前での街頭募金

最後に、少しご家族のことに触れたいと思います。所詮ライオンズクラブは「社会奉仕団体」ですから、「仕事あつてのライオンズ」であり、また「家庭あつてのライオンズ」であります。ですが中にはすっかりライオンズ活動にのめり込んでしまい、仕事や家庭がおろそかに……なんて方も少なからずいるやには聞いております。ですがL吉澤の場合、以前はご家族を連れて同伴例会にもよく参加されていたそうですし、また、お子さんが小さいときには仕事でも使っていたクラウンのステーションワゴンのリヤシートを倒してフラットにして、そこにカーペットを敷いて子供たちを載せてよく遠出をしたものだ……なんて話をされていました(因みにこの運転方法は大変危険ですので、くれぐれも真似をされませんように!)

とは言え、あれだけライオンズ活動を活発に行ってこられたのですから、ご家族に迷惑をかけることも少なからずあったのではと思います。でも、ご家族の皆様はそんなL吉澤のライオンズに対する熱い思いを酌み取り、支えて下さったからこそ「生涯ライオン」を貫き、また全うすることが出来たのだらうと思います。今年2月の第一例会にはL吉澤の奥様、LL吉澤葆美様が「一言お礼を言いたい。」とのことでわざわざ例会場にお越し下さり、ドネーションまで頂戴しました。近々本号とガバナーズ・アワード(在籍メンバー賞)の記念品を持って、改めてお礼方々お線香をあげに行くつもりです。

さて、本来であれば昨期の最終号で「いなほ」を終わりにするつもりでした。ですが、今期の活動を検討している最中で、「あれ、これから8月第二例会は、どうすんだ?」という話が持ち上がりました。我がクラブでは、毎年8月第二例会は例会場に集まらず、各々が文章にて近況報告をして、それをもって出席とする「いなほ例会(以前は『はがき例会』と称していた)」を実施しています。ですが「いなほ」が無くなってしまうと、出席の報告の場が無くなってしまいます。で結局、今期の「いなほ」例会の内容及び出欠を発表する本号をもって「いなほ」を終了し、来年の8月第二例会からは

新たに「INAHO」を発行して対応することに致しました。この「INAHO」は、今後の周年行事の際にも発行して、活動報告、等を掲載する予定です。何だかちょっと詐欺っぽい終わり方で恐縮ですが、今までの永年の「いなほ」に対するご愛読に感謝致しますと共に、新星「INAHO」につきましても、更なるご愛読の程、宜しくお願ひ申し上げます。

令和2(2020)年8月31日

「いなほ」副編集長

「INAHO」編集長

矢口 実